

エコアクション21

環境経営レポート



2023年度版（2023年4月～2024年3月）

三兼商事株式会社

作成 2024年6月28日

会社概要

- (1)社名 : 三兼商事株式会社
- (2)代表者 : 代表取締役社長 小田 晴道
- (3)所在地 : 〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通 3-21 三兼ビル
- (4)設立 : 1957年5月2日
- (5)環境管理責任者 : 取締役営業統括部長
担当連絡先 : 総務部 課長
- (6)事業の規模
- 事業内容 : 船用機器・建設機械用機器・発電所向け機器・水処理施設用
機器・一般産業機械用機器の販売
- 資本金 : 24,000 千円
- 従業員数 : 20 名
- 床面積 : 839.17 m²
- 売上高 : 25 億円 (2023 年度実績)
- (7)認証・登録の対象範囲
- 登録組織名 : 三兼商事株式会社
- 対象事業所 : 本社・全組織
- 対象活動 : 全活動
- (8)レポートの対象期間 : 2023年4月～2024年3月
発行日 : 2024年6月28日

環境経営方針

[ご挨拶]

三兼商事株式会社は1957年創業以来、主要取引先である三菱重工業株式会社様から絶大なる信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営んで参りました。

昨今では、環境負荷低減を目的とした機械装置の販売にも従事しており、環境問題と向き合う企業理念が今後の重要な課題であると考えます。

そこで満50年を迎え、更なるグローバル化の一環として環境に配慮した経営を目指し、環境マネジメント認証を取得しました。

地球環境に優しい商社として新たな一步を踏み出し、以下の通り環境マネジメントに取り組み、環境経営の継続的改善を実施致します。

[基本理念]

当社は環境保全を経営の重要課題のひとつと考え、事業活動を通じて従業員一丸となって環境保全に取り組み、豊かな社会の実現に貢献します。

[行動指針]

- 1.環境負荷軽減の為にCO2排出量の抑制・廃棄物の削減及び有効利用・水使用量の削減を重点的に推進します。
- 2.教育・訓練等の実施により従業員に環境方針並びに環境保全の重要性を周知徹底します。
- 3.環境関連法規及び当社が同意した各種協定を遵守します。
- 4.環境負荷を軽減させる資材の利用、製品の販売を促進します。
- 5.グリーン購入に積極的に取り組みます。

2009年4月1日 策定

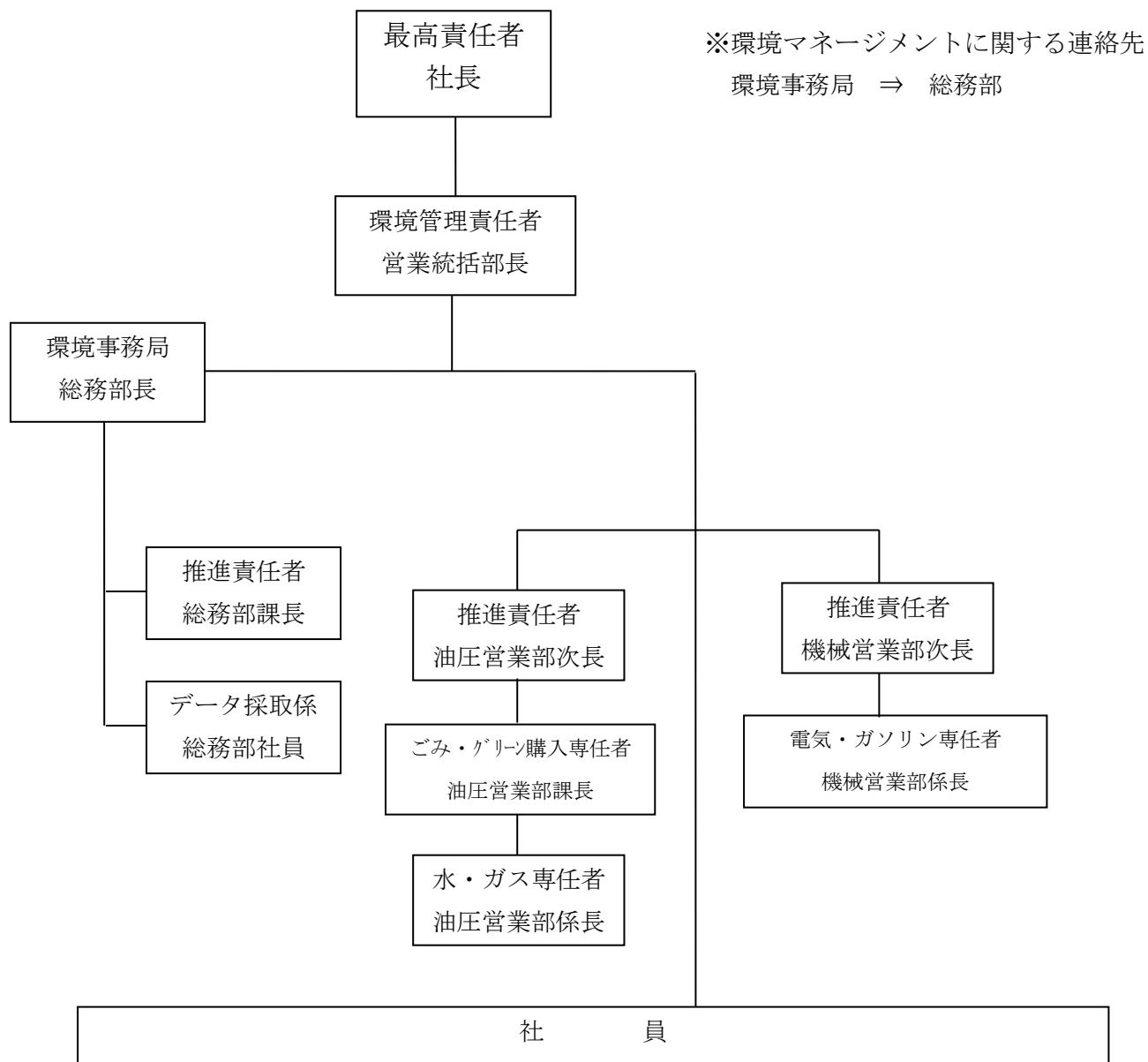
2018年4月6日 改定

三兼商事株式会社

代表取締役社長 小田 晴道

環境マネジメント組織と役割

<会社組織と環境マネジメント組織>



<環境マネジメント役割分担>

最高責任者	環境方針の策定、全体の評価と見直し、環境目標及び活動方針の承認
環境管理責任者	実績の評価と見直し、環境目標の設定、活動計画の策定
環境事務局	環境マネジメントにおける外部窓口
推進責任者	システムの確立、実施、環境目標の推進と実績の把握と報告・改善案に基づいた活動内容の立案
専任者	担当項目の問題点集約と改善案立案・担当項目の推進
データ採取係	各項目のデータ採取

環境経営目標

①中期計画(2021年度～2023年度)

2021年度に制定した『環境目標 中期計画』は、最終年度となった。以下に結果をまとめる。

【中期計画(2021年度～2023年度)の結果】

前中期計画(2018～2020年度)の結果より、当中期計画(2021～2023年度)を以下のように定めた。

なお、2020年度実績に関しては、短時間勤務(コロナ対策)での実績なので除外し、2018・2019年度のデータを元に中期計画を決定する。

- ・電力 ⇒ 未達成のため、前中期計画の基準値を継続する。
- ・ガス・燃料・燃費・水・ゴミ ⇒ 2018年・2019年実績の最小値を基準値として挙げる。

また、2018年度より環境経営目標に『環境性能に優れた機器類の取扱品目の拡大』を挙げていたが、当中期計画から『環境負荷低減製品の提案・販売』へ変更する。以前は取扱品目を毎年1件追加することを目標としていたが、当中期計画からは『1件以上の販売実績』を目標とする。

項目	単位	基準値	2021年度		2022年度		2023年度	
			実績		実績		実績	
CO2排出量	kg - CO2	29,778	26,975	○	25,192	○	24,759	○
電力	kWh	55,353	55,998	×	51,781	○	49,621	○
ガス	m ³	76	62	○	45	○	36	○
燃料	L	5,169	3,886	○	3,869	○	3,983	○
燃費	km/L	18.4	18.3	×	18.4	○	16.8	×
水 上下水道	m ³	218	175	○	155	○	155	○
ゴミ	可燃	kg	522	○	518	○	587	○
	資源	kg	172	○	195	×	227	×
グリーン購入	件	15	15	○	15	○	15	○
環境機器取扱品目	件	1件以上	2	○	2	○	2	○

・電力の二酸化炭素排出係数は、2022年度より『0.311kg-CO2/kWh(調整後)』(関西電力2023年1月24日公表)を採用している。

※ 基準値に対して、実績が達成の場合は『○』、未達成の場合は『×』

※ 燃料は『ガソリン』と『軽油』の合計量を記載している。

(ガソリンは社用車、軽油はレンタカーのみで使用)

※ 燃費は社用車の走行距離を『ガソリン』のリッター量で割って算出している。

<概要>

中期計画の実績値は3年通して概ね基準値以下に抑えることができた。唯一、基準値を大きく上回った負荷項目は『資源ごみ』である。資源ごみは2022・2023年度共に目標未達成だが、両年度とも社内の不用品を処分した際に出た古紙(ダンボール・書類・カタログ等)が原因である。2022年度は在庫整理時に廃棄したダンボール(再利用不可分)を約60kg廃棄した。2023年度は不要書類のシュレッダーゴミ、不要カタログを約44kg廃棄した。

今後は古紙の廃棄量を低減できるよう、ダンボールは過度な梱包を避け、カタログ・書類は紙媒体ではなくPDF等電子媒体で保管する方向で検討する。

②2023 年度活動内容と結果

<2023 年度実績>

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

項目	目標	実績	目標との比較	達成度	
電力使用量 (CO2 換算値)	55,353kWh	49,621kWh (15,432kg-CO2) ※1	-5,732kWh	A	
ガス使用量 (CO2 換算値)	76 m ³	36 m ³ (80kg-CO2)	-40 m ³	A	
車両燃料使用量 (CO2 換算値)	5,169L	3,983L (9,247kg-CO2)	-1,186L	A	
二酸化炭素量 (上記 3 件合計)	29,778kg-CO2	24,759kg-CO2	-5,019kg-CO2	A	
燃費	18.4km/L	16.8km/L	-1.6km/L	B	
水使用量 (上下水道)	218 m ³	155 m ³	-63 m ³	A	
ゴミ類	可燃ゴミ	595kg	587kg	-8kg	A
	資源ゴミ	185kg	227kg	+42kg	C
グリーン購入	15 件	15 件	—	A	
環境機器取扱品目数	1 件以上	2 件	—	A	

(達成度) A:よくできた B:まずまずできた C:あまりできなかった D:全くできなかった

※1 電力の二酸化炭素排出係数は『0.311kg-CO2/kWh(調整後)』(関西電力 2023 年 1 月 24 日公表)を採用。

<2023 年度活動内容と評価>

項目	活動内容	評価
電力使用量の削減	エアコンの温度管理 夏季 26℃/冬季 23℃ 不要箇所の消灯 外出時、パソコンを切る	目標達成。 従来の節電活動を続けつつ、古い設備機器(エアコン・LED 等)の入替え等も検討する。
ガス使用量の削減	ガス給湯器の使用頻度削減	今年度もガス給湯器の使用を最小限に抑えられた。
車両燃料の適正使用	エコドライブの奨励 計画走行の充実	ガソリン使用量は目標達成、燃費は目標未達。 燃費向上できるように、急発進・急加速の禁止、アイドリング減少、タイヤ圧管理、計画走行を徹底する。
水使用量の削減	節水奨励	今年度も使用を最小限に抑えられた。
ゴミの削減	裏紙使用の徹底 ゴミ排出量低減活動	可燃ゴミは目標達成。 資源ゴミは目標未達。2023 年 12 月に書類・カタログ類の整理を行い、不要な本・カタログ類・不要書類のシュレッダーゴミを廃棄したことで目標値をオーバーする結果となった。
グリーン購入	グリーンマーク商品・リサイクル商品の積極的購入	予算内で可能な対象を選び、目標を達成できた。 今後も用紙・プリントインキ等対象を広げ検討する。
環境機器取扱品目数	環境負荷低減商材への積極的な営業参画	火力発電所用部品・船舶エンジン用部品の販売実績あり。

④次中期計画(2024~2026 年度)及び 2024 年度活動計画

中期計画(2021~2023 年度)の結果より、次中期計画(2024~2026 年度)を以下のように定める。

- ・電力・ガス・燃料・燃費・水・可燃ごみ ⇒ 2021~2024 年実績の平均値を目標値とする。
- ・資源ごみ ⇒ 未達成のため、前中期計画の基準値を継続する。

< 中期計画(2024~2026 年度) >

項目	単位	基準値	2024 年度	2025 年度	2026 年度
			目標	目標	目標
CO2 排出量	kg - CO2	31,844	31,844	31,844	31,844
電力	kWh	52,467	52,467	52,467	52,467
ガス	m ³	48	48	48	48
燃料	L	3,913	3,913	3,913	3,913
燃費	km/L	18.4	18.4	18.4	18.4
水 上下水道	m ³	162	162	162	162
ゴミ	可燃	kg	542	542	542
	資源	kg	185	185	185
グリーン購入	件	15	15	15	15
環境負荷低減製品	件	1 件以上	1 件以上	1 件以上	1 件以上

・電力の二酸化炭素排出係数は、2024 年度より関西電力の 2022 年度係数『0.434 kg-CO2/kWh(調整後)』(2023 年 12 月 22 日公表)を採用している。

※ 燃料は『ガソリン』と『軽油』の合計量を記載している。
(ガソリンは社用車、軽油はレンタカーのみで使用)

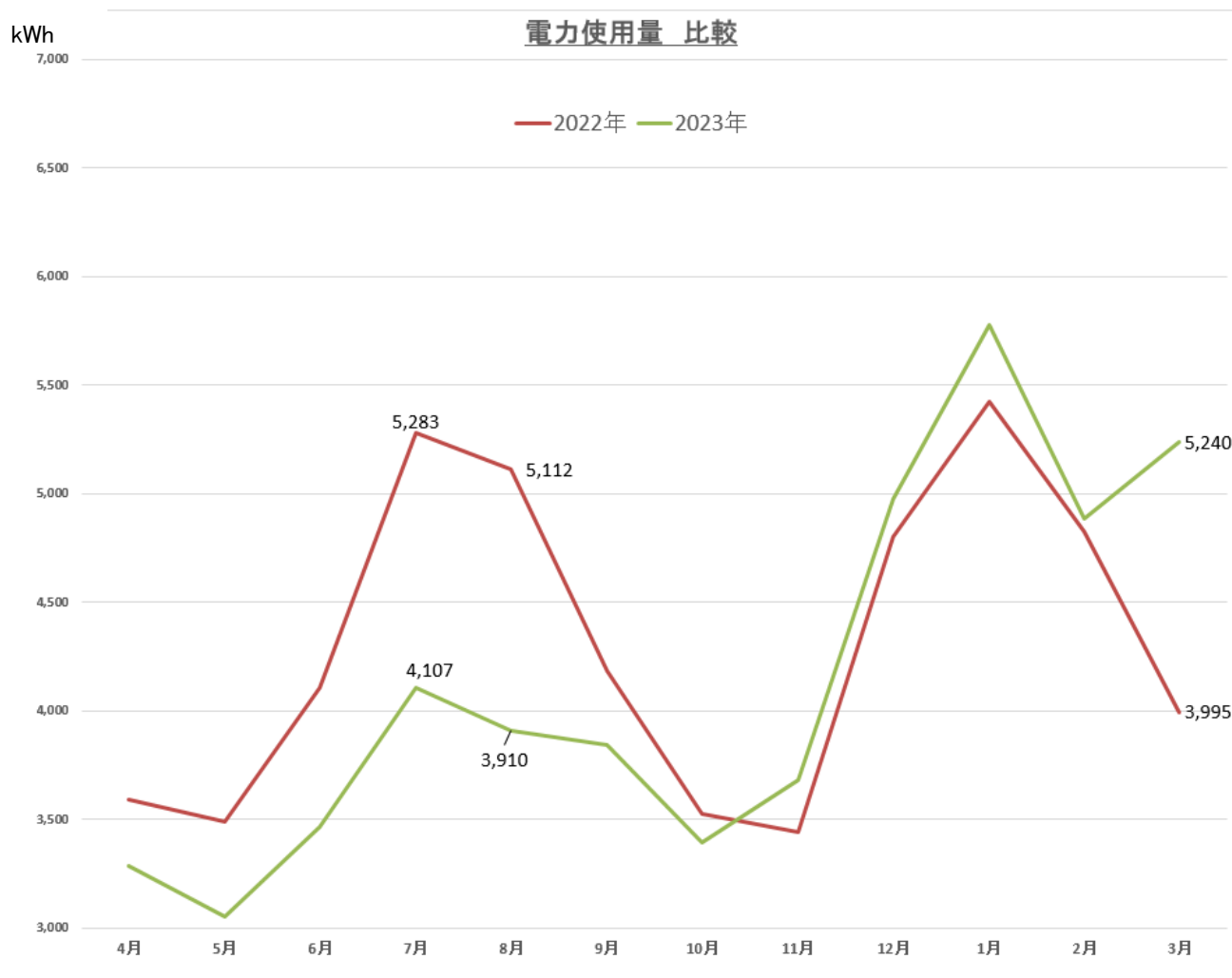
※ 燃費は社用車の走行距離を『ガソリン』のリッター量で割って算出している。

③2024 年度 目標と活動計画

<2024 年度活動計画>

項目	目標値	活動計画	担当者
電気使用量の削減	52,467kWh	①エアコンの温度設定管理 冷房 26℃/暖房 23℃ 室内温度：夏季 28℃以上/冬季 20℃以下のみ使用 ②不要箇所の消灯、ブラインドを開ける ③外出時にパソコンを切る ④古い設備機器(エアコン・LED)の順次入替え	大村
ガス使用量の削減	48 m ³	ガス給湯器の使用を控える	松本拓
車両燃料の適正使用	使用量 3,913L 燃費:18.4km/L	①エコドライブの奨励 法定速度遵守/急発進・急加速の禁止 ②計画運行の奨励 ③アイドリングストップの奨励	大村
CO2 排出量(上記 3 件換算)	31,844kg-CO2	—	—
水道使用量の削減	162 m ³	節水奨励	松本拓
ゴミの削減	可燃：542kg 資源：185kg	①裏紙使用の徹底 裏紙専用プリンターの設置 ②ゴミ排出量低減活動(ビニール袋をもらわない等)	高野
グリーン購入	15 件	①対象の見直し (従来はグリーンマーク商品のみを対象としていたが、 リサイクル商品も対象に含める) 全体として 15 件対象を選定	高野
環境負荷低減製品の提案 ・販売	販売実績 1 件以上	環境負荷低減効果のある製品の販売を推進する。 各メーカーが開発した省エネ製品・環境負荷低減製 品の新製品の拡販を重点的に計画する。	南

(参考資料 ①) ※電力使用量の推移 (2022年・2023年)



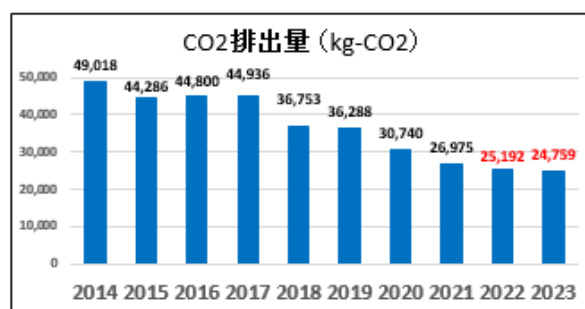
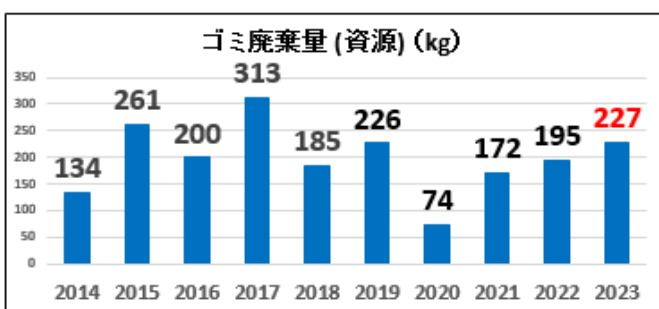
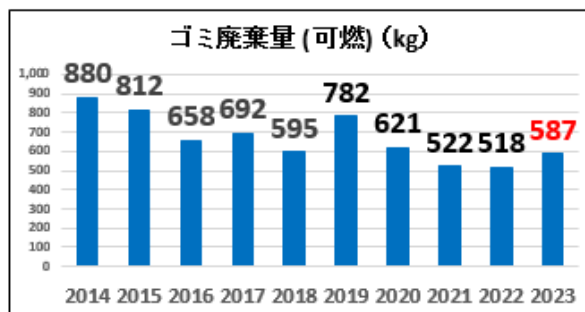
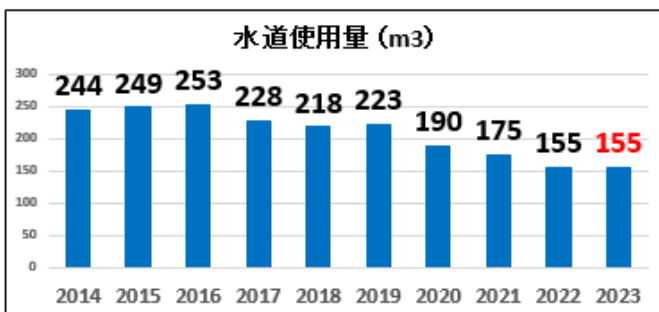
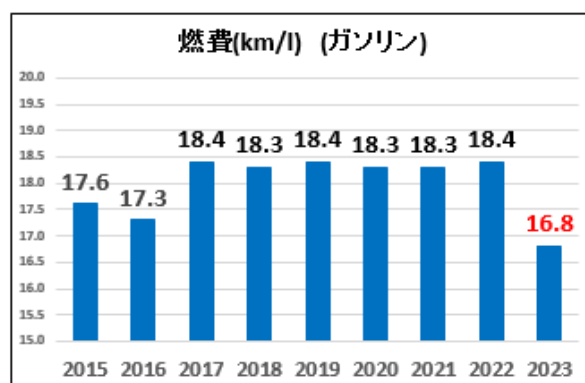
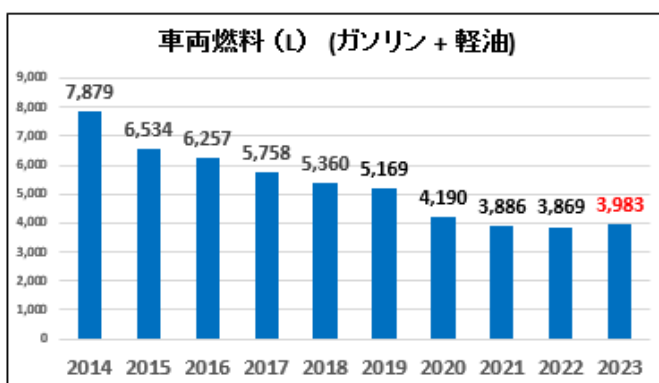
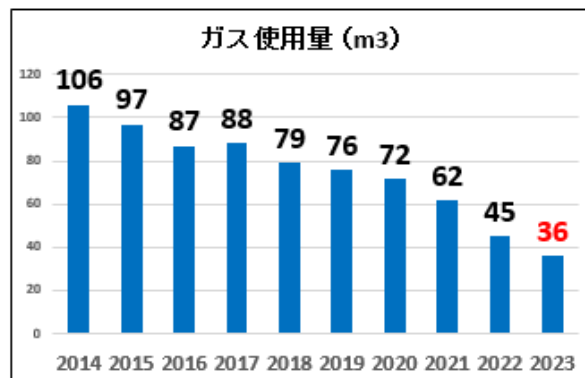
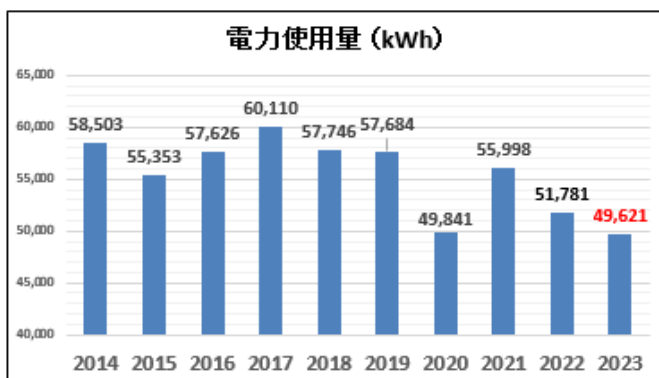
(電気使用量の低減の要因)

・2023年7月・8月は例年と比較して、西日本太平洋側では梅雨前線や台風の影響で大雨となった所もあり、降水量が多かった。また、台風や湿った空気の影響を受けた時期があり、月間日照時間は少なかった。これらにより夏場のエアコンの消費電力が前年よりも減少したと考えられる。

・一年を通して各人が効率的に業務を進めたことで残業時間が減少し、電気機器類の使用時間が減り、全体的な電気使用量が減少した。

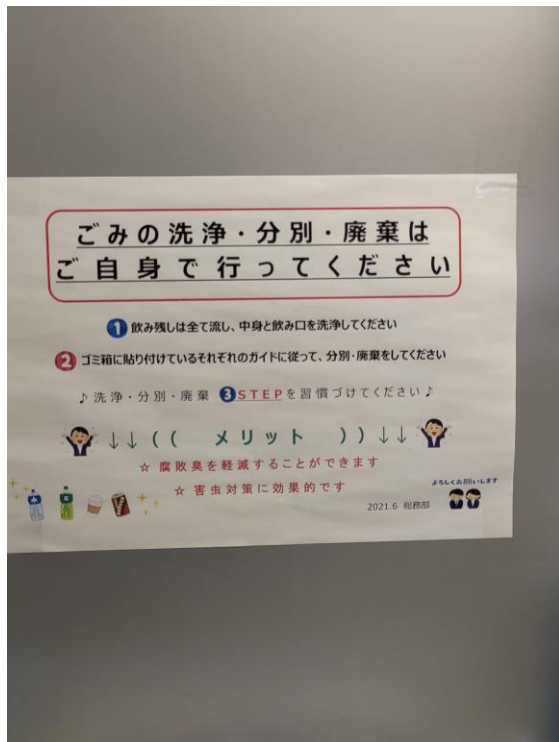
(参考資料 ②) ※各実績値の推移

環境目標 実績値推移 (2014～2023年度)



(参考資料 ③) ※社内掲示物について

(資源ゴミ分別方法の掲示) ※ビン・缶・ペットボトル廃棄方法について



(2F 事務所に掲示) ※ゴミの分別方法・減量、社内衛生の意識向上

ごみの腐敗臭を軽減するために
ご協力をよろしくお願い致します!!



お弁当・カップ麺等の容器

♪食べ終わったあとは、綺麗に洗い流し水分をよく切ってください

食べ残した食材は三角コーナーへ
※フードロス防止のために、できるだけ食べ残しは御遠慮ください

コンビニコーヒーのカップ

♪カップの中、飲み口を綺麗に洗い流し、水分をしっかりと切ってください

割り箸・爪楊枝

♪ゴミ箱にそのまま捨てると袋に穴が開きます
水分が流れ出てゴミの保管場所の衛生環境が悪くなりますので
弁当容器の中に入れて蓋をするか、いらぬ紙に包んでください

できるだけ、マイ箸のご持参をお願い致します



～メリット～

- ①綺麗に洗い流すことにより腐敗臭を軽減できます
- ②水分をしっかりときることにより、ゴミの減量に繋がります
- ③害虫対策に効果的です

ゴミの分別に御協力をお願いします

【電池】
→ 回収BOX

【ライター】
ガス無し→燃えるゴミ
ガス残あり→総務部へ

【割り箸・爪楊枝】
箸袋に戻して捨てるか
紙に包んでから捨ててください

→ 一辺が50 cm以下のもの

資源ゴミ もえるゴミ もえないゴミ

大型ゴミ
(指定袋に入らない)
机・イス
大型プラスチック
業者へ収集委託しますので
総務部へ御連絡下さい

・不燃物と可燃物からできている物
→ 一辺が50cmを超える可燃物

【捨てるまえに】

- ・食べ物の容器は洗って、水けをよく切ってください
- ・ごみは小さくまとめてください

【捨てるまえに】

1. 中身を捨てて綺麗に水洗い
2. ラベルをはがして可燃ごみへ
3. キヤップも可燃ごみへ

ごみ量は...5階です

【注意事項】

尖ったもの、割れているものは紙に包んでからごみ袋に捨ててください
(紙に「キケン」と書いてください)

ごみ量は...5階です

【注意事項】

- ・中身を全部使い切ってください
- ・穴を開けずに出してください
- ・他の粗大(不燃)ごみと混ぜないでください
(スプレー缶・ボンベ専用のゴミ袋に入れてください)

- ・カセットコンロ用ボンベ
- ・整髪剤、制汗剤、塗料等のスプレー缶

環境関連法規制等の取りまとめ

(兼遵守状況の確認)

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。過去3年間に法令違反及び公的機関からの指導はありません。

また同じく近隣等からの要求、訴訟はありませんでした。

法規名	公布	改正	適用条項	要求事項または内容	遵守状況	確認日
神戸市民の環境をまもる条例	H6.3.31	H9.3.31	5条-1・2・3・6 30条 46条	環境負荷低減の積極的な取組 学習の実施 地球環境保全への取組	○	6月3日
神戸市廃棄物の適正処理、再利用及び環境美化に関する条例	H5.3.31	R6.3.29	5条	廃棄物の適正処理	○	6月3日
フロン排出抑制法	H27.4.1	R4.6.17	16条～26条	業務用エアコンの簡易点検	○	6月3日
消防法	S23.7.24	R4.6.17	17条の3の3	消防設備等の定期点検	○	6月3日
自動車NOx・PM法	H.4.6.3	R2.4.1	1条 4条	自動車排出窒素酸化物等の排出の抑制	○	6月3日
自動車リサイクル法	H.14.7.12	R4.6.17	1条 5条 8条	長期使用の推進と適正廃却の義務	○	6月3日
家電リサイクル法	H.10.6.5	R2.4.1	6条	長期使用の推進と適正廃却の義務	○	6月3日

※ 上記の法律に関しては、法令データ提供システム(総務省 HP)にて、最新の法改正について随時確認を行っている。

法令データ提供システム ⇒ <https://elaws.e-gov.go.jp/>

代表者による全体の評価と見直し・指示

(評価)

※②2023 年度活動内容と結果 <2023 年度実績>を参照

(見直し・指示)

2023 年度は概ねすべての環境経営目標を達成することができた。唯一、目標値をオーバーした資源ごみだが、定期的に行っている在庫整理の際に出た不要な書類・カタログ・再利用できないダンボール等を廃棄したことが原因である。今後は書類やカタログは電子化することで量を減らし、ダンボールについても過度な梱包を避けて使用量を減らすよう努める。

なお、環境機器の取扱件数に関しては、火力発電所用部品・船舶エンジン用部品の計 2 件の実績があった。(以下に詳細を記載)

なお、環境経営方針・実施体制については、引き続き現状のまま継続する。

(環境機器の概要)

1.発電所向バルブ及び配管用特殊リング

取引先ユーザー製作の発電プラントは、スチームタービンは100年、ガスタービンは60年の歴史がある。プラント製作当初より発電効率アップの検討を継続しており、現在ではスチームタービンとガスタービンを組み合わせたコンバインドサイクル発電（GTCC）が多く採用されている。GTCCは従来型の石炭焚き火力発電より発電効率が20%向上し、CO2排出量も約50%の削減が可能となっている。

当社も約50年間に亘り、スチームタービン・ガスタービンの関係機器を納入してきた。スチームタービンは50年前、ガスタービンは10年前よりプラント内のバルブ及び配管用の特殊リング製品を供給している。

上記の事から間接的ではあるが、発電プラントの発電効率アップ、CO2削減に寄与している。今後も継続して納入する予定である。

※ 2023年度実績 2.4億円 2024年度見込 2.9億円

2.船舶エンジン用ピストンリング

2010年以降に電子制御により必要最低限の燃料でエンジンを運転出来る高効率エンジンが開発された。燃焼効率が上がった為、排ガスの低減効果が認められる。

当社は上記Ecoエンジン（Electronically controlled Engine）の内蔵部品であるピストンシリンダー用ピストンリングを供給しており、間接的に環境対策に寄与している。今後も継続して納入する予定である。

※ 2023年度実績 2億円 2024年度見込 2億円

以上の2件である。

いずれも環境負荷の低減に効果のあるものであり、また取引額の面からも当社の経営に大きな影響を与えていると考えられる。今後も環境経営を継続し、環境負荷の少ない新製品の拡販や環境関連の案件への積極的な営業活動を行って、活動範囲を拡大する。

以上

2024年6月28日

代表取締役社長 小田 晴道